

合流式下水道緊急改善事業の事業評価シート(事後評価)

評価実施年月:平成25年7月

1. 対象事業	泉大津市汐見下水処理場合流改善事業																												
2. 実施主体名称	泉大津市																												
3. 計画期間	平成20年度から平成22年度																												
4. 対象事業の進捗状況	・計画通り事業完了し、平成24年4月より合流改善施設として運用を開始。 ・平成24年度のデータを収集分析する。																												
5. 目標の達成状況と達成の見通し	<p>【改善目標】</p> <p>①汚濁負荷量の削減(分流式下水道並みの汚濁負荷にすること) →目標値:BOD放流負荷量40.8t/年 以下</p> <p>② 公衆衛生上の安全確保(未処理放流水の回数半減) →目標越流回数:28回/年 以下</p> <p>(※ きょう雑物の削減については、既設スクリーンにて改善済み)</p> <p>【目標に対する達成状況】</p> <table border="1"><thead><tr><th>改善項目</th><th>評価指標</th><th>対策前</th><th>改善目標</th><th>事後評価</th></tr></thead><tbody><tr><td>緊急改善事業</td><td>合流式下水道改善率</td><td>0%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr><tr><td>① 汚濁負荷量の削減</td><td>BOD放流負荷量</td><td>44.3t/年</td><td>40.8t/年</td><td>18.2t/年</td></tr><tr><td>② 公衆衛生上の安全確保</td><td>年間越流回数</td><td>57回/年</td><td>28回/年</td><td>33回/年</td></tr><tr><td></td><td>年間降雨回数に対する越流(未処理放流)回数</td><td>57回/102回 (55.88%)</td><td>28回/102回 (27.45%)</td><td>33回/118回 (27.97%)</td></tr></tbody></table> <p>事業完了により施設に関しては100%改善済み。平成23年度末事業認可等をもって流域下水道への本流入を開始、平成24年4月から合流改善施設として運用となる。平成24年度のデータを収集分析し、事後評価を行う。</p> <p>■ 汚濁負荷量の削減については、目標値40.8t/年を大きくクリアする結果(18.2t/年)となり、事業効果が見られた。</p> <p>■ 未処理放流回数については、比較年度より降雨回数が多いことを考慮すると、目標値(28回/102回)に対し、実績値(33回/118回)と概ね半減目標を達成できたと考える。</p>				改善項目	評価指標	対策前	改善目標	事後評価	緊急改善事業	合流式下水道改善率	0%	100%	100%	① 汚濁負荷量の削減	BOD放流負荷量	44.3t/年	40.8t/年	18.2t/年	② 公衆衛生上の安全確保	年間越流回数	57回/年	28回/年	33回/年		年間降雨回数に対する越流(未処理放流)回数	57回/102回 (55.88%)	28回/102回 (27.45%)	33回/118回 (27.97%)
改善項目	評価指標	対策前	改善目標	事後評価																									
緊急改善事業	合流式下水道改善率	0%	100%	100%																									
① 汚濁負荷量の削減	BOD放流負荷量	44.3t/年	40.8t/年	18.2t/年																									
② 公衆衛生上の安全確保	年間越流回数	57回/年	28回/年	33回/年																									
	年間降雨回数に対する越流(未処理放流)回数	57回/102回 (55.88%)	28回/102回 (27.45%)	33回/118回 (27.97%)																									
6. 対象事業の整備効果の発現状況等	・過去にあった吐口からの放流による苦情、問い合わせは事業後、現時点ではない状況である。 ・計画目標値を見据え、運転管理が継続して行えており、公共水域の水質保全に効果が出ている。 ・事業実施により放流水質は、10mg/lから5mg/l(H24データ)に改善された。																												
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	・運転管理において、いっそう汚濁負荷量が削減できるよう滞水池の貯留水を効率よく返流し、次の降雨に備え、貯留量を確保する取り組みを行う。																												
8. 今後の方針	効率的な施設運転に努め、継続してデータの収集、分析を重ね、目標達成状況を確認していく。																												